

「土砂災害 危機意識をもって」

茨城県 筑西市立下館小学校 6年 藤代 かれん

今年の7月に入ってから、九州豪雨と秋田豪雨があった。九州豪雨では、記録的な大雨により、死者は35人にのぼり、今だ6人の行方が分かっておらず、今も約640人が避難している。今回記録的な豪雨をもたらしたのは「線状降水帯」だ。この線状降水帯で土砂崩れが起こったり、建物の中に土砂が流れ込んだり、家が潰れたりと影響が大きかった。

平成28年には、熊本地震による、大規模な土砂災害も発生し、被害者を出している。

土砂災害ではないが、2015年9月、近隣でも、鬼怒川の堤防が決壊し、河川の氾濫が起きて、大きな被害が出た。私の知り合いの家でも大きな被害が出たという。「家の中に水が入ってしまい、その泥をかき出すのも大変で、臭いもすぐに取りえず、元の生活に戻すのに苦労した。」と言っていた。

土砂災害と言っても、発生する場所によって、土石流、地滑り、がけ崩れに分かれるそうだ。その主な原因は、前述したような集中豪雨や地震だ。

もし、自分の身に起こったら、どうしてよいのか分からなくなるし、とても恐ろしい。幸い、私の住む地域は、河川氾濫も土砂災害も被害は受けにくい所だ。身近には起こりにくいためか、正直、あまりピンと来ないものもある。

でも、いつ自分の身に起きるか、どこで巻きこまれるかは予想もつかないと思うし、自分の身には起きないと思っても、絶対に土砂災害にあわない、起きないということはありません。なので、もしもの事態を考えて、自分の意識も、備えも準備をしていくことが大切だと思う。

各自治体では、災害ハザードマップを作成し、土砂災害から生命を守るため、土砂災害のおそれのある区域について、危険の周知、警戒区域体制の整備を図っている。

家にもハザードマップがあるのは知っているが、よく見たことはない。こういう人は意外と多いのではないだろうか。また、マップがあっても、実際に災害が起きた時に、どのように対応しなければいけないかがよく分からない。学校でも、地震や火事に対する避難訓練は行っているが、土砂災害については、行っていない。

一度災害を経験すると、意識にも危機感をもてるようになり、備えや知識はできてくると思うが、「今まで長年住んでいるけど、こんなことは初めてだ。」とか、「こんな災害が起こるとは思わなかった。」「自分のところは大丈夫だと思った。」とニュースなどで見ることがある。こういうことから、土砂災害も含めた、勉強会や住民の避難訓練等を行って、自分自身も含め、住民一人一人の意識を上げていくことが必要だと思う。

家でも、災害について、備えや対応などを改めて話してみたい。そして、自分たちにできることを考え準備をしていきたいと思う。

日本以外でも、今、世界ではたくさんの異常気象が起きている。南米北西部では、今年初めから大雨が続いていて、3月には各地で災害が発生。

コロンビアのモコア市では、3月31日に大雨による大規模土砂災害が発生し、この災害で262人が死亡した。ペルーでは大雨による災害で昨年12月から今年3月31日までに101人が死亡した。

この異常気象や災害の原因は、地球温暖化が一因となっているとも言われている。地球温暖化の影響で、大雨の発生が増加傾向にあるようだ。大雨、集中豪雨が増えれば、土砂災害のリスクも増えてくる。

世界ではパリ協定を結んで温暖化防止の対策を施している。温暖化は全世界共通の問題だ。温暖化を防ぐためにも、一人ひとり、家族、地域、地球にいる人全員ができることを考え積極的に行うことも大切だと思う。私なら、小さいことだが緑のカーテンをつくることや、詰め替え用のものを使うというようなこと、エアコンやテレビの使用を控えたりと普段の生活を少し工夫するだけでも、温暖化防止に貢献することができるのではと思う。

災害防止についての意識や行動、地球を守るために、私たちができることを考えていきたいと思う。